

# 京都大学大学院

# 教育学研究科紀要

## 第67号

毛沢東時代の読書規範

「受験英語」における英文解釈法の歴史的展開

結婚情報誌における地方色の喪失

教育議論におけるNHK『中学生日記』の役割

中国高等職業教育分野における1+X証書制度の位置づけ

都市新中間層のインターネット文化に対する文化生産論的分析

女性の職業的スキルとキャリア

貫戦期と女性のライフコースの変容

米国ライティング教育における分析枠組みの批判的検討

*Amae* and Freedom in Everyday Language: Toward Transcultural Educational Theory

藤岡貞彦による総合学習論の意義と課題

マシュー・アーノルドの教養概念に関する検討

D. ウィリアムによる形成的アセスメントの理論と実践

ナフィールド中等科学の意義に関する一検討

# 京都大学大学院 教育学研究科紀要 第67号

## 目 次

### 論 文：

毛沢東時代の読書規範……………	比護 遥	1
- 政治文化の連続性に着目して -		
「受験英語」における英文解釈法の歴史的展開 ……	藤村 達也	15
- 伊藤和夫の「構文主義」を中心に -		
結婚情報誌における地方色の喪失……………	彭 永成	29
- 「九州ゼクシィ」に着目して -		
教育議論における NHK 『中学生日記』 の役割 ……	王 令薇	43
- 制作者側・視聴者側の語りを中心に -		
中国高等職業教育分野における 1 + X 証書制度の位置づけ ……	張 潔麗	57
都市新中間層のインターネット文化に対する文化生産論的分析……………	呉 江城	71
- 「豆瓣網」を事例として -		
女性の職業的スキルとキャリア……………	佐野 和子	85
- パネルデータを用いた職業資格の有用性に関する分析 -		
貫戦期と女性のライフコースの変容……………	岩井 八郎	99
- 「職業移動と経歴調査（第2回女子調査），1983」の再分析 -		
米国ライティング教育における分析枠組みの批判的検討……………	森本 和寿	123
- ファルカーソンとバーリンの分類に着目して -		
<i>Amae</i> and Freedom in Everyday Language: Toward Transcultural Educational Theory ……………	TAKAYA Shoko	137
藤岡貞彦による総合学習論の意義と課題……………	祁 白麗	151
- 環境教育の議論を踏まえて -		
マシュー・アーノルドの教養概念に関する検討……………	本宮裕示郎	165
- 科学観の変遷に着目して -		
D. ウィリアムによる形成的アセスメントの理論と実践 ……	石田 智敬	179
ナフィールド中等科学の意義に関する一検討……………	鎌田 祥輝	193
- 開発当時の教育制度と科学教育論に着目して -		
症例「鼠男」における自我変容としての道徳性……………	後藤 悠帆	207
- S. フロイトが論じた二種類の「反動形成」 -		
理念的なものはいかに教えられるのか……………	浅井 健介	221
- 概念理論をめぐる初期ベンヤミンの現象学研究を手がかりに -		
中国人日本語学習者の文章理解に及ぼす音韻処理自動化の影響……………	康 楠	235
- 語彙音韻符号化・ポーズ・読みの流暢さという視点から -		

心理臨床におけるイニシエーション概念についての研究……………	小島 純一	249
-セラピストとクライアントの関係性に着目して-		
「自分の物語」はいかにして生成されるか……………	豊原 響子	263
-物語を生きることとその途上における問題について-		
アリス・ミラーの理論からみた、現代の精神分析臨床……………	渡部 智行	277
-心的外傷概念の拡張をめざして-		
犯罪における“悪”および破壊性に関する一考察……………	長谷 雄太	293
-現象としての犯罪と、体験としての犯罪に着目して-		
D. W. Winnicott の精神分析理論および実践に関する一考察……………	山岸 礼門	307
-心が生きるための空間という観点-		
自閉スペクトラム症における「つながり」に関する一考察……………	文山 知紗	321
心理療法における「エビデンス」とは何か……………	松下 姫歌	335
- Evidence-based の概念の再検討を通して-		
心理臨床を茶の湯に見立てる……………	藤本 航平	361
-心理臨床と茶の湯文化の心理・空間的比較-		
キャリア形成支援におけるロールモデルの機能と関係性……………	溝口 侑	375

#### 資 料：

研究費……………	389
プロジェクト活動	
教育実践コラボレーション・センター……………	393
グローバル教育展開オフィス……………	399
博士論文……………	403
修士論文……………	404
卒業論文……………	406
執筆者一覧……………	409
京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程……………	410

Code of reading practice in the Maoist era: focusing on the continuity of political culture .....	HIGO Haruka	1
A Historical Analysis of English Interpretation Methods for University Entrance Examinations in Japan .....	FUJIMURA Tatsuya	15
Disappearance of local colors in the bridal magazine: paying attention to “ <i>Kyushu Zexy</i> ” .....	PENG Yongcheng	29
The Role of NHK <i>Chugakusei Nikki</i> in Discussion on Educational Issues: Focus on Its Producers and Readers’ Narratives .....	WANG Lingwei	43
Positioning of 1+X Certificate System in Higher Vocational Education in China .....	ZHANG Jieli	57
An analysis on the Internet culture of new middle class from the production of culture perspective: Focus on the Douban.com .....	WU Jiangcheng	71
Japanese women’s skills and careers: panel-data analysis on the usefulness of occupational qualifications .....	SANO Kazuko	85
Transformation of women’s life course during interwar period: analysis of the 1983 Women’s Occupational Mobility and Career Survey .....	IWAI Hachiro	99
A Critical Review of Frameworks of Teaching Writing in the United States: Focusing on the Richard Fulkerson’s and James Berlin’s Classifications .....	MORIMOTO Kazuhisa	123
日常語における「甘え」と「自由」 －文化越境的な教育理論の構築に向けて－	高谷 掌子	137
Implications of Fujioka’s Sogo-Gakushu Theory: based on discussion of environmental education .....	QI Baili	151
Examination of Matthew Arnold’s Concept of Culture: Focus on Changes in his View of Science .....	HONGU Yujiro	165
Theory and Practice of Formative Assessment by D. Wiliam .....	ISHIDA Tomohiro	179
Significance of Nuffield Secondary Science: Focusing on the Educational System and History of Science Education in England .....	KAMADA Yoshiki	193

Morality as Alteration of Ego in the Case “Rat Man”: Two Types of “Reaction-Formation” of S. Freud .....	GOTO Yuho	207
How Can We Teach the Ideal? Focusing on Walter Benjamin’s Early Phenomenological Studies on the Concept Theory .....	ASAI Kensuke	221
Impact of automatic phonological processing on Japanese text comprehension among Chinese intermediate Japanese language learners: from the viewpoint of word phonological decoding, pause taking, and reading fluency .....	KANG Nan	235
A study on the concept of initiation in clinical psychology: focusing on the relationship between therapist and client .....	KOBATAKE Junichi	249
How Is “Self-Story” Generated? : A Study of Living Self-Stories and Some Problems on the Way .....	TOYOHARA Kyoko	263
Modern Psychoanalytic Clinical Practice from the viewpoint of Miller’s theory: towards an extension of the trauma concept .....	WATANABE Tomoyuki	277
Consideration of “badness” and destruction in crime: from the viewpoints of phenomena and experience .....	NAGATANI Yuta	293
A Study on the theory and practice by D. W. Winnicott: a viewpoint of space where mind lives .....	YAMAGISHI Reimon	307
A Study on “Connection” in Autism Spectrum Disorder .....	FUMIYAMA Chisa	321
What is “evidence” in psychotherapy? : revising the concept of “evidence-based” .....	MATSUSHITA Himeka	335
Making clinical psychology look like tea ceremony: psychological spatial comparison of clinical psychology and tea ceremony .....	FUJIMOTO Kohei	361
The functions and relationships of role models in career formation support .....	MIZOGUCHI Yu	375

研 究 費

研 究 費

年月日	研 究 課 題 名	氏 名
2020.4.1	基盤研究 (A) 身体的表象から自他分離表象にいたる発達プロセスの解明	明和 政子
2020.4.1	基盤研究 (B) なつかしさ感情の機能と個人差：認知・神経基盤の解明と応用	楠見 孝
2020.4.1	基盤研究 (B) 戦後日本における政治家・財界人の教育観に関する教育社会学的研究	稲垣 恭子
2020.4.1	基盤研究 (B) 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究	南部 広孝
2020.4.1	基盤研究 (B) パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム・マネジメントの改善方略の開発	西岡加名恵
2020.4.1	基盤研究 (B) ゼロ年代以後の教育歴とライフコースの変化に関するパネル調査研究	岩井 八郎
2020.4.1	基盤研究 (B) 批判的犯罪学の観点をふまえた非行からの離脱過程に関する研究	岡邊 健
2020.4.1	基盤研究 (B) 「畏敬」の心理・生物学的基盤とその効用に関する構成論的研究	野村 理朗
2020.4.1	基盤研究 (B) 日本植民地統治下台湾における教育の「植民地性」再考—共時的・通時的比較分析	駒込 武
2020.4.1	基盤研究 (B) 実行機能を「実行」する知識の獲得過程と運用機構の解明	齊藤 智
2020.4.1	基盤研究 (B) 近代日本の政治エリート輩出における「メディア経験」の総合的研究	佐藤 卓己
2020.4.1	新学術領域研究 コミュニケーション意図の推論とその非定型性に関する定量的検討（研究領域提案型）	明地 洋典
2020.4.1	研究成果公開促進費（研究成果公开发表 (B)）ひらめき☆ときめきサイエンス ダイバーシティと生きる：人と社会を科学する	安藤 幸
2020.4.1	基盤研究 (C) 心理アセスメントにおけるスーパーヴィジョンシステムの構築	高橋 靖恵
2020.4.1	基盤研究 (C) 〈哲学の女性性〉とアメリカ哲学のグローバルな再生：政治教育の実践哲学研究	齋藤 直子
2020.4.1	基盤研究 (C) 教師力（タクト）熟達の日独比較—学校日常の緊急性・不確実性対処に関する実証研究	鈴木 晶子
2020.4.1	基盤研究 (C) 国際博覧会条約（1928年）及び博覧会国際事務局（1931年）の成立に関する研究	佐野真由子

2020.4.1	基盤研究 (C) 大正・昭和初期都市新中間層における理想的人間像の形成と変容	竹内 里欧
2020.4.1	基盤研究 (C) 教育成果の質的測定を活用した教員・学校・教委連携型教育改善システムの開発的研究	服部 憲児
2020.4.1	基盤研究 (C) 非英語圏トランスナショナル高等教育の展開に関する国際比較研究	杉本 均
2020.4.1	基盤研究 (C) 資質・能力を育成する授業づくりを軸にした学校改善の方法論に関する開発研究	石井 英真
2020.4.1	基盤研究 (C) 共感性の発達基盤に関する縦断データを用いた行動遺伝学的研究	高橋 雄介
2020.4.1	基盤研究 (C) ソーシャルワーク専門職教育における「多様性教育」の国際比較研究	安藤 幸
2020.4.1	基盤研究 (C) 明治期におけるカナダ・メソジスト教会の教育事業—公教育と学校制度の展開への対応—	田中 智子
2020.4.1	基盤研究 (C) ブータン社会における次世代支援とモラル育成—サステナビリティとスピリチュアリティ—	西平 直
2020.4.1	基盤研究 (C) 他者の「受諾」に向けた哲学実践：アメリカ超越主義の教育的意義をめぐる国際対話研究	齋藤 直子
2020.4.1	基盤研究 (C) Do East Asian Students Achieve Highly at the Cost of Well-Being? Critical Analysis Utilizing PISA	Rappleye Jeremy
2020.4.1	基盤研究 (C) 日本の精神分析史の構築—古澤平作の遺品調査を通して—	西 見奈子
2020.4.1	挑戦的研究 (萌芽) ビルドゥングスロマンと「女性の生き方」の表象に関する比較文化社会学研究	稲垣 恭子
2020.4.1	挑戦的研究 (萌芽) 対人相互作用における内受容—外受容感覚の統合とその発達機序の解明—	明和 政子
2020.7.30	挑戦的研究 (萌芽) ワーキングメモリ・トレーニングの「負の効果」を越えて	齊藤 智
2020.7.30	挑戦的研究 (萌芽) 「無心」の認知科学	野村 理朗
2020.7.30	挑戦的研究 (開拓) カリキュラム空間：生徒の自己調整思考能力を高める革新的なカリキュラム編成	Manalo Emmanuel
2020.4.1	若手研究 (B) 近世教育メディア史における「無料」の価値—「施印」に着目して—	ファンステーン パール ニールス
2020.4.1	若手研究 Round Study の有効性の検証と評価シートの開発・効果検討	黒田真由美

研 究 費

2020.4.1	若手研究 図書館の社会的責任に関する戦後史研究	福井 佑介
2020.4.1	若手研究 高齢期の孤高状態と社会的孤立の違いの検証	豊島 彩
2020.4.1	若手研究 自閉症の選好性過剰説の認知科学的検討	明地 洋典
2020.4.1	若手研究 地理的空間・場所に基づく世界市民的教育の理論と実践に関する研究	広瀬 悠三
2020.4.1	研究活動スタート支援 海外に長期滞在する日本人家庭の心理社会的適応	安藤 幸
2020.4.1	研究活動スタート支援 教育モデルの国際移動メカニズムの検証：E D U - P o r t を一例として	高山 敬太
2020.9.11	研究活動スタート支援 周縁性・植民地経験とキリスト教の再認識—東アジアのイギリス人宣教師に着目して—	三野 和恵
2020.4.1	国際共同研究強化 (B) 他なるものとの共存に向けた政治教育：日本先導によるアメリカ実践哲学の国際対話研究	齋藤 直子
2020.4.1	国際共同研究強化 (B) 認知リソース概念の誤謬に挑む国際共同研究	齊藤 智
2020.4.1	特別研究員奨励費 記憶の意図的な抑制メカニズムの検討	西山 慧
2020.4.1	特別研究員奨励費 韓国ナショナリズムと対日ノスタルジア研究：「嫌悪」と「親密」の相互依存関係性から	趙 相宇
2020.4.1	特別研究員奨励費 1950年代前半における「子どもを守る」運動の射程	山口 刀也
2020.4.1	特別研究員奨励費 アメリカにおける作文教育の検討：技能教授と生活表現の統合	森本 和寿
2020.4.1	特別研究員奨励費 言語的機能が自己の認知に及ぼす影響の解明：言語陰蔽効果パラダイムによる検討	波多野 文
2020.4.1	特別研究員奨励費 身体技法の習得プロセスの分析を通じた心身問題の克服	Legendre Alexandre Michel
2020.4.1	特別研究員奨励費 自然災害をめぐる知とメディアについての歴史社会学的研究	水出 幸輝
2020.4.1	特別研究員奨励費 フロイトの教育思想—「規範と欲望」をめぐる道徳教育の基礎研究	後藤 悠帆
2020.4.1	特別研究員奨励費 スキル形成理論に基づく女性の教育歴・資格取得・職業的キャリアに関する実証研究	佐野 和子
2020.4.1	特別研究員奨励費 母子の身体感覚の個人差が社会的認知発達に与える影響—授乳場面に着目して	松永 倫子



2020.4.1	特別研究員奨励費 畏敬の念の負の側面に関する研究—個体と環境の相互作用の観点から—	高野 了太
2020.4.1	特別研究員奨励費 人生全体のウェル・ビーイングの評価：幸せの時間パターンに対する選好分析を通して	金子 迪大
2020.4.1	特別研究員奨励費 物語産出における物語世界の疑似体験メカニズム	西口 美穂
2020.4.1	特別研究員奨励費 無条件の受容の臨床教育学—ハイデガー「共存在」概念を手がかりに	森 七恵
2020.4.24	特別研究員奨励費 幼児の概念的表象の多様性：空想の友達を通じた経験要因の検討	山口 将典
2020.4.24	特別研究員奨励費 アメリカにおける教師の力量形成論に関する研究—教師の知識論の系譜に着目して—	若松 大輔
2020.4.24	特別研究員奨励費 宣伝国家の読書空間：知識人と大衆の近現代中国メディア史	比護 遥
2020.4.24	特別研究員奨励費 Hebb 反復効果生起メカニズムの再検討	Araya Orozco Claudia
2020.4.24	特別研究員奨励費 日本における環境教育の理論と実践	祁 白麗
2020.4.24	特別研究員奨励費 コンピテンシーを育成する形成的アセスメントの理論と実践	石田 智敬
2020.4.24	特別研究員奨励費 戦後初期の台湾「再解放」運動—「二つの中国」の狭間における非同盟主義の可能性	張 彩薇
2020.4.24	特別研究員奨励費 孤独感が社会的認知の歪みに及ぼす効果および加齢発達の検証	豊島 彩
2020.8.1	特別研究員奨励費 英語学習における活用的学習観の社会的形成過程	赤松 大輔

## 教育実践コラボレーション・センター

### 「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究を目指して」

#### 〈活動概要〉

平成 19 年度から教育学研究科では特別教育研究経費（教育改革）による「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、教育実践コラボレーション・センターとして、さまざまな活動を行ってきている。教育実践コラボレーション・センターの目的は、現場から持ち込まれた具体的な問題に対し、異分野融合チームを組織するなどして、教育学研究科としての組織的な対応をコーディネートすることにある。その際、子どもをめぐる教育問題の中心を「生命性を深めること」（心の問題）と「有能性を高めること」（学力問題）という 2 つの軸として取り出し、そのトータルな育成の方法を探っている。また、教育研究におけるマクロ的アプローチ（教育制度学や教育行政学、比較教育学）とミクロ的アプローチ（認知心理学や心理臨床学、教育哲学や教育方法学）を統合しつつ継続的に研究を進めている。

平成 25 年度から平成 29 年度にかけては科学研究費補助金（基盤研究 A）による研究課題「学校を中心とする教育空間における力動的秩序形成をめぐる多次元的研究」（研究代表者：桑原知子）が採択され、活動を展開した。校内暴力、不登校、学級崩壊、いじめなどは学校教育の秩序を揺るがす問題だと定義され、それへの対応として、秩序から逸脱した人や状態をいかに秩序の中に回収するのか、乱れた秩序をいかに再び平衡に戻すのかが考えられてきた。しかしながら現在、この前提が崩れはじめ、学校のみならず、地域・社会、家庭においても、従来の秩序に戻せばいいという発想ではうまくいかなくなっていると考えられる。そこで、この研究課題においては、学校、地域・社会、家庭、電子空間といった複数の空間での人々の相互作用のあり方を解明し、秩序のゆらぎがどのようなものであるかを明らかにするとともに、その中でどのような秩序が動的に、新たに立ち上がってくるのかということを探求するために、実践・研究を行った。

本年度は、これまでの研究やアウトリーチ活動を継続するとともに、GAP ファンド臨時プログラム「ポスト・コロナの初等中等教育における ICT 活用に関する研修プログラム開発と具体的提言」（代表者：西岡加名恵）や全学経費によるプロジェクト「ポストコロナ時代における教育問題解決に向けた学校支援の展開」を展開している。また、これまでに得られた知見や経験を学際的に統合するため、異なる分野の教員がともに議論する「知的コラボの会」に力を入れた。さらに、教育実践コラボレーション・センターの一組織である E.FORUM（教育研究開発フォーラム）は、現職教員の力量向上のために、研修やセミナーを提供するとともに、学校現場の課題解決に資するための研究開発を推進している。

このほか、今年度はキャンパス内での活動が大きく制限されたことに対応して、新入生に対する教員・研究室紹介を研究科のコロナ対応 WG と協力して開催した。

〈講演会・シンポジウム・ワークショップなど〉

(2020年4月1日～2021年3月31日)

日本デジタル教科書学会 研究会 (E.FORUM 後援)

「公教育オンライン対応開始の10年後を語る—教育学の知見をふまえて」

- 日時：2020年5月16日(土) 13:00～16:00
- 場所：オンライン開催

新入生に対する教員・研究室紹介 (教育実践コラボレーション・センター後援)

● 日程：

5/18 (月)	岡邊健	6/4 (木)	広瀬悠三
5/19 (火)	齋藤直子、 Jeremy RAPPLEYE	6/5 (金)	福井佑介
5/22 (金)	石井英真	6/8 (月)	楠見孝
5/26 (火)	梅村高太郎	6/9 (火)	駒込武
5/27 (水)	高橋雄介	6/10 (水)	服部憲児
5/28 (木)	佐藤卓己	6/11 (木)	佐野真由子
5/29 (金)	西見奈子	6/12 (金)	杉本均
6/1 (月)	明和政子、明地洋典	6/16 (火)	南部広孝
6/2 (火)	安藤幸、高松礼奈	11/6 (金)	西岡加名恵
6/3 (水)	齊藤智	11/16 (月)	佐藤卓己
		12/23 (水)	田中智子

- 場所：オンライン開催

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修

「コロナ禍において奮闘する先生方のためのオンライン・リレー講座」

- 日程：2020年7月5日(日)・19日(日)、8月2日(日)・16日(日)
- 場所：オンライン開催
- 講師：石井英真(京都大学)、楠見孝(京都大学)、西見奈子(京都大学)、西岡加名恵(京都大学)(登壇順)

第33回 知的コラボの会「パーソナリティ発達の行動遺伝学」

- 日時：2020年7月30日(木) 16:00～17:30
- 会場：オンライン開催
- 話題提供：高橋雄介(京都大学)

日本デジタル教科書学会 第9回大会 (E.FORUM 後援)

「PC1人1台の学校環境を見据えて—教育現場の実践と教育学・情報学研究の交流」

- 日時：2020年8月10日(月・祝)・11日(火)
- 場所：オンライン開催(大会実行本部：京都大学大学院教育学研究科内)

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修

オンラインコース「教育評価の基礎講座」2020

- プログラム：全6回
  - 第1回 2020年9月16日(水)～「2017・2018年改訂学習指導要領の特徴」
  - 第2回 2020年10月14日(水)～「『目標に準拠した評価』の基本的な考え方」
  - 第3回 2020年11月18日(水)～「パフォーマンス課題の作成」
  - 第4回 2020年12月16日(水)～「ルーブリックとポートフォリオの活用」
  - 第5回 2021年1月20日(水)～「2019年改訂指導要録のポイント」
  - 第6回 2021年2月17日(水)～「学校ぐるみの授業改善の進め方」
- 講師：第1回～第4回 西岡加名恵(京都大学)、  
第5回～第6回 石井英真(京都大学)

第34回 知的コラボの会「発達の多様性と障害をどう捉えるか」

- 日時：2020年10月15日(木) 13:00～14:30
- 会場：オンライン開催
- 話題提供：明地洋典(京都大学)

E.FORUM 連続研究会「学校教育におけるICT活用」

(GAPファンダ臨時プログラムによるプロジェクト)

- プログラム：
  - ・第1回「オンライン授業の初歩の初歩／情報活用能力の体系表例」  
日時：2020年10月16日(金) 19:00～20:30  
講師：京都大学大学院教育学研究科・助教 久富望
  - ・第2回「LMSの初歩の初歩～何のためにあるのか？  
／教育データ利活用をめぐる議論～LMSの次の未来」  
日時：2020年10月23日(金) 19:00～20:30  
講師：京都大学大学院教育学研究科・助教 久富望
  - ・第3回「オンライン授業からみえてきたICTを活用した学びを深める授業とは」  
日時：2020年10月30日(金) 19:00～20:30  
講師：京都教育大学附属桃山小学校・教諭 樋口万太郎 先生

- ・ 第 4 回「休校期間中の熊本大学教育学部附属中学校での取り組み  
／頭のど真ん中にある判断基準とは何か」  
日時：2020年10月31日（土） 14：00～16：00  
講師：熊本大学教育学部附属中学校・教諭 三浦寿史 先生、小田修平 先生  
高松市総合教育センター・指導主事 河田祥司 先生
- ・ 第 5 回「学習データ利活用による授業実践例」  
日時：2020年11月13日（金） 19：00～20：30  
講師：京都大学大学院情報学研究科・博士後期課程 黒宮寛之 氏  
京都市立西京高等学校附属中学校・主幹教諭 宮部剛 先生
- ・ 第 6 回「GIGA までの歩みとこれからを考える  
—教育のデジタル・トランスフォーメーションの可能性」  
日時：2020年11月21日（土） 14：00～15：30  
講師：日本デジタル教科書学会・副会長 片山敏郎 先生
- ・ 第 7 回「教育の情報化政策の動向と学校における ICT 活用」  
日時：2020年12月4日（金） 19：30～21：00  
講師：大阪大谷大学教育学部・教授 開沼太郎 先生
- ・ 第 8 回「パフォーマンス評価における ICT の活用」  
日時：2020年12月18日（金） 19：30～21：00  
講師：京都教育大学附属桃山小学校・教諭 長野健吉 先生
- ・ 第 9 回「授業における ICT 活用とそのための体制づくり」  
日時：2021年1月9日（土） 14：00～16：00  
講師：東京都立石神井特別支援学校・指導教諭 海老沢穰 先生  
岡山県立林野高等学校・前校長 三浦隆志 先生
- ・ 第 10 回「情報モラル教育のための様々な取り組みのご紹介」  
日時：2021年1月23日（土） 14：00～16：00  
講師：一般社団法人ソーシャルメディア研究会 吉田航さん、西村澪さん  
京都府警察本部生活安全部 サイバー犯罪対策課  
神戸大学大学院医学研究科 精神医学分野・教授 曾良一郎 先生
- ・ 第 11 回「算数・数学教育における ICT 活用」  
日時：2021年2月5日（金） 19：30～21：00  
講師：京都教育大学・教授 黒田恭史 先生
- ・ 第 12 回「ICT を使ったカウンセリング」  
日時：2021年2月20日（土） 14：00～15：30  
講師：京都大学学生総合支援センター・センター長／教授 杉原保史 先生

- ・ 第 13 回「学習科学からの知見をふまえた ICT 活用」  
日時：2021 年 3 月 5 日（金） 19：30～21：00  
講師：大阪府立大学人間社会システム科学研究科・教授 岡本真彦 先生
- ・ 第 14 回「実践交流会」  
（全国スクールリーダー育成研修「第 15 回実践交流会」を兼ねる）
- 場所：オンライン開催

福岡県立京都高校 『『総合的な探究の時間』における課題研究セミナー』

- 日程：2020 年 10 月 23 日（金）
- 場所：オンライン開催
- 講師：服部憲児（京都大学）

北京師範大学・京都大学院生学術交流 2020

- 日時：2020 年 10 月 24 日（土）
- 場所：オンライン開催
- 主催：京都大学大学院教育学研究科、教育実践コラボレーション・センター

E.FORUM 講演会「教育改革の先行事例としての SGH

— グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究」

- 日程：2020 年 11 月 28 日（土） 14：00～16：00
- 場所：オンライン開催
- 講師：広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原成章 先生

E.FORUM 研修会 『『総合的な探究の時間』を探究する』

- 日程：2020 年 12 月 5 日（土） 13：30～16：00
- 場所：オンライン開催
- ワークショップ「探究的な学習における生徒の育ちを評価する」  
指導・助言者：兵庫県立尼崎小田高等学校・教諭 秋山衛 先生、福田秀志 先生  
協力：兵庫県立尼崎小田高等学校  
講師：西岡加名恵（京都大学）
- シンポジウム「探究的な学習のカリキュラムと指導」  
講師：滋賀県立守山北高等学校・教頭（元・膳所高等学校）小池充弘 先生  
福井県立若狭高等学校・教諭 渡邊久暢 先生  
愛知県立大学教育福祉学部・准教授 大貫守 先生

福岡県立京都高校 『『総合的な探究の時間』における課題研究発表会』

- 日程：2020年12月23日（水）
- 場所：オンライン開催
- 講評：服部憲児（京都大学）

第35回 知的コラボの会「教育データ利活用の困難さと未来について」

- 日時：2021年1月7日（木）15：00～16：30
- 会場：オンライン開催
- 話題提供：久富望（京都大学）

第36回 知的コラボの会「オープンサイエンスと大学図書館」

- 日時：2021年3月4日（木）10：00～11：30
- 会場：オンライン開催
- 話題提供：西岡千文先生（京都大学附属図書館研究開発室・助教）  
北村由美先生（京都大学附属図書館研究開発室・准教授）

第37回 知的コラボの会「心理学の研究文化とオープンサイエンス」

- 日時：2021年3月9日（火）13：00～14：30
- 会場：オンライン開催
- 話題提供：齊藤智（京都大学）

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修「第15回実践交流会」

（第14回連続研究会「学校教育におけるICT活用」を兼ねる）

- 日時：2021年3月27日（土）14：00～16：30
- 会場：オンライン開催
- 担当：西岡加名恵（京都大学）、石井英真（京都大学）

## グローバル教育展開オフィス

### グローバル教育展開オフィス ～コロナ禍における「日本型」教育研究の展開～

グローバル教育展開オフィス（以下、オフィス）は、本研究科の学際的研究教育拠点として平成 29 年度の設置以来、グローバル時代の教育課題に取り組み、その成果を国内外に発信することを目的に、積極的な教育研究活動を行ってきた。オフィスは、「創生開発ブランチ」と「国際教育支援ブランチ」の 2 部門からなる。「創生開発ブランチ」は、オフィスの統括と研究プロジェクトの推進を主に担当し、一方で「国際教育支援ブランチ」は、海外研究機関との学術交流の展開や大学院を中心とするグローバル教育の企画と実施を主に担当している。令和 2 年度からオフィスの取組は基幹経費化され、「日本型」教育研究や国際学術交流をより一層発展・展開させていくことが期待されている。

オフィスは今年度、コロナ禍において早期に活動の場をオンラインへ移行させ、以下に示す基幹および支援事業に取り組んだ。

#### 【基幹事業（研究）】

##### <「日本型」教育研究プロジェクト>

「新しい理論的・実践的基盤に立った教育文化・知の継承支援モデルの構築と展開」をテーマに、「日本型」教育研究プロジェクトを進めている。このプロジェクトの目的は、日本の教育を支えてきた文化のしきみをグローバルな視野から問い直すことによって、教育の新しいグローバル・スタンダードとそれに基づく教育モデルの可能性を、理論・実践の両面から探究し、その成果を「方法としての京都」として国内外に発信していくことにある。理念モデルと、「発達を軸にした先端的理論と支援モデル」、「伝統文化から先端技術まで含む学習環境の変容と支援モデル」、「世代間、世代内の関係性の歴史の変容と支援モデル」の 3 つの支援モデルを軸に、それぞれのチームが研究を進めている。また、日本語で書かれた主要な研究論文を、海外の教育研究者に向けて英語と中国語に翻訳・出版する準備を進めている。

##### <オンライン・レクチャーシリーズ>

「越境する『日本型教育』の歴史的・多角的理解に向けて (Towards Critical, Historical and Transnational Dialogues on Japanese “Model” of Education)」をテーマに、全 9 回のレクチャーから成るレクチャーシリーズを Zoom 上で開催した。すべてのレクチャーを日本語と英語の同時通訳をつけてライブ配信した後、教育コンテンツとしてアーカイブ化して本学 OCW とオフィス HP で公開している。

#### 第 1 回レクチャー

「“Me Inwardly Before I Dared”: Private Writing, the Legacy of Japanese American “Internment” and the Rhetorics of Gaman (内に秘めた私：日系人「収容所」で書かれた日記に見る修辞語としての「我慢）」

- 日時：2020 年 7 月 31 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
- 講演者：ミラ・シマブクロ 氏（アメリカ・ワシントン大学ボセル校 講師）



第2回レクチャー

「意図した断絶と意図せざる継承について—1945年の台湾と朝鮮における学校文書から— (Intended Break and Unexpected Continuation: School Documents in/after Japan's Colonial Rule)」

- 日時：2020年8月28日(金) 15時00分～17時00分
- 講演者：樋浦 郷子 氏 (国立歴史民俗博物館 准教授)

第3回レクチャー

「世界に羽ばたく生活綴方?—『世界の子ども』(全15巻、平凡社、1955-1957年)にみる「翻訳」の問題 (Seikatsu Tsuzurikata, Daily Life Writing, Flying to the World? The Problem of “Translation” Embedded in *Children of the World*)」

- 日時：2020年9月25日(木) 15時00分～17時00分
- 講演者：駒込 武 氏 (京都大学大学院教育学研究科 教授)

第4回レクチャー

「<連動史>として見たブラジルにおける日本の教育文化の展開 (The Development of Japanese Educational Culture in Brazil as a Node for Interconnected Histories)」

- 日時：2020年10月31日(土) 14時00分～16時00分
- 講演者：根川 幸男 氏 (国際日本文化研究センター プロジェクト研究員)

第5回レクチャー

「The Learning Community Writ Large: Towards a New Direction in the East Asian Style of Education in South Korea and Japan (「学びの共同体」の拡大：韓国と日本における東アジア式教育の新たな方向性)」

- 日時：2020年11月20日(金) 15時00分～17時00分
- 講演者：ヨウル・クワン・サン 氏 (韓国・慶熙大学校教育学部 教授)

第6回レクチャー

「Using Japanese Idea of Problem-Solving and Lesson Study to Support Mathematics Learning in US Urban Schools: The Power of Transnational Learning (「日本型」問題解決と授業研究を用いたアメリカ都市部の学校における算数の学習支援：越境する学びの力)」

- 日時：2020年12月11日(金) 10時00分～12時00分
- 講演者：キャサリン・ルイス 氏 (アメリカ・ミルズカレッジ 上級研究員)

第7回レクチャー

「「日本型」教育 Tokkatsu の国際化 (The Internationalization of the “Japanese Model” of Schooling Tokkatsu)」

- 日時：2021年1月18日(月) 15時00分～17時00分
- 講演者：恒吉 僚子 氏 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

第8回レクチャー

「エジプトで受け入れられた日本式 Tokkatsu 今後の海外展開の課題と可能性 (The Japanese Model of Schooling “Tokkatsu” in Egypt: Future Challenges and Possibilities)」

- 日時：2021年2月19日(金) 15時00分～17時00分
- 講演者：杉田 洋 氏 (國學院大學人間開発学部 教授)

第9回レクチャー

「国際協力を通じた「教育モデル」の借用・貸与—日本による「知識外交」の促進を事例として (Borrowing and Lending of “Educational Models” through International Cooperation: Cases of Japan’s Efforts to Promote “Knowledge Diplomacy”)」

- 日時：2021年3月15日(月) 15時00分～17時00分
- 講演者：北村 友人 氏 (東京大学大学院教育学研究科 准教授)

【基幹事業 (国際教育および国際交流)】

＜グローバル教育科目＞

「グローバル教育科目」は、修士課程および博士後期課程の院生を対象に、グローバルな視野で研究や実践を行うためのスキルを身につけることを目的としている。「グローバル教育科目群」には、「国際合同授業」、「国際教育研究フロンティア」、「国際インターンシップ」、「国際フィールドワーク」が含まれる。オフィスでは、これら科目の運営・実施の支援を通して、院生に学びの機会を提供している。今年度は、コロナ禍において事業の多くがオンラインでの実施となった。「国際インターンシップ」では院生の海外研修のオンライン参加や、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの「国際合同授業」実施の支援を行った。

【支援事業 (研究)】

オフィスでは、院生の国内外における積極的な研究教育活動を支援している。昨年度から、院生の研究を国際化するため、国際学会での発表の構想やリハーサル、英語論文の執筆、ジャーナルの選び方や投稿など、基礎から応用まで幅広く支援している。これらの取組に加えて今年度は、院生の研究論文の英語翻訳支援を行うとともに、本研究科教員の研究論文および著書についても英語翻訳・校正支援を行った。このようにして、国際的な学術雑誌への投稿と書籍の海外出版を推進した。

**【支援事業（国際教育および国際交流）】**

オフィスでは、本研究科における、学術交流協定校との国際交流事業を支援している。今年度は、ランカスター大学心理学部およびドルトムント工科大学教育科学・心理学部との学術交流協定継続・更新に向けた打ち合わせや、北京師範大学との学生交流を支援した。また、「大学の世界展開力強化事業－アフリカ諸国との大学間交流形成支援－」に参画し、今後、同地域との学術交流を深化させていく予定である。

**【その他の取組】**

オフィスは、「2020年度日本型教育の海外展開の在り方に関する調査研究事業」の受託研究機関に採択された。文部科学省が関係府省国際機関と連動して2016年から実施している「日本型教育の海外展開推進事業（Edu-Port ニッポン）の調査研究を行った。

令和2年度 学位（博士）授与者及び題目一覧

論文博士 ※令和3年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
野 見 収	断絶としての教育 － L. アルチュセール思想の再検討－
柴 恭 史	高等教育システムにおける緩衝組織の構造と機能 － 革新的教育フレームワークの開発と普及の観点から－

課程博士 ※令和3年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
谷 美 奈	「書く」ことによる学生の自己形成 － 文章表現「パーソナル・ライティング」の実践を通して－
石 黒 翔	Social working memory: A cognitive basis for retention of person information
佐 野 和 子	日本のスキル形成システムと女性の職業キャリアに関する研究 － 職業資格とその効用に関する計量社会学的分析－
趙 相 宇	植民地支配をめぐる記念日報道－自主性の系譜
松 尾 理 也	「関西ジャーナリズム」の歴史社会学的研究 － 『大阪時事新報』を中心に
徳 島 祐 彌	アメリカにおける体育カリキュラム論に関する研究 － 1960年代以降におけるカリキュラム・モデルの諸潮流の成立と展開－
宮 坂 ま み	注意欠如・多動症に関する実験・調査研究
山 崎 法 子	障害児教育における学校と社会の連携に関する研究 － 移行期に着目して－
佐々木 大 樹	児童福祉領域における暴力を巡る心理臨床学的論考

修士論文題目一覧

氏名	論文題目
篠原 史生	救護法下における精神病者処遇と方面委員 - 1930年代の京都市を中心として -
月川 青花	日本海軍の人材養成と帝国大学 - 工科大学を中心に -
張 伶華	日本植民地支配下台湾における青年学校 - 太平青年学校をめぐる状況に着目して -
小柳 亜季	エリック・ホーキングズによる言語教育の構想 - Awareness of Language に着目して -
等々力 花歩	他者との同期行動が乳幼児の援助行動に与える影響
中来田 敦美	浦辺史による保育施設論の成立過程
渡部 綾一	Development of the information capacity of visual experience at a brief glance
松岡 昌平	場の力動としての教育的経験 - 『経験としての芸術』の視角から読み直すデューイの教育論 -
森川 真由子	ヌスバウムのコスモポリタニズム再考 - 二つの自己脱中心化モデルを通じて -
山本源大	ジャン＝リュック・ナンシーの「自己教育」論 - 言表行為による他者との関わりに焦点を当てて -
福居 奈名絵	Philosophizing Compassion Education : Contemplating Ohashi Ryosuke's Phenomenology of Compassion
池田 寛香	懐かしさの生起を支える自伝的記憶の特徴
澤田 和輝	畏敬の念が創造的思考に及ぼす影響
櫃割 仁平	俳句の美的評価を予測する心理状態と個人特性：感情との関わりから
尹 優進	身体技法による認知の変容に関する研究
倪 楠	Potential negative effects of working memory training
大坂 陽子	成人期の未婚の娘と母親の関係性についての心理学的考察 - “女性として生きること”をめぐる母親の体験に着目して -
西澤 園子	青年期における強迫性傾向と ASD 傾向の関連について - “見る”を通じた心的体験の検討から -
橋本 新吾	インターネット依存傾向における罪悪感と幸福感の関連について - タイプ別にみた依存傾向の相違点に着目して -
橋本 由布子	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における価値観の変容とレジリエンス - 語りと描画から -
原 亮輔	関心に寄り添う臨床について - 関係精神分析の批判を通して -
松尾 理奈	青年期の子どもが認知した両親間葛藤に関する心理臨床的研究 - 両親との関係性および過剰適応との関連から -
温 秋穎	戦前放送中国語「支那語講座」のメディア史 - 他者の言語を想像する文化の政治 -
邱 潔	中国の学校外教育における教師の有料補習 - 教育システムにおける機能に着目し -

令和2年度修士論文

PIFFAUT GALVEZ MARCELO ALEJANDRO	移民者同士のアイデンティティ構築過程における「社交」: 関西地方に居住するイスパノアメリカ人の事例に着目して
下 村 英 之	教科横断的な主権者教育の推進のための教員研修の在り方 －全国的動向と先進事例の分析を通して－
松 川 大 将	カナダ・ヌナブト準州におけるイヌイット語政策 －政策と実態の乖離に着目して－
大 野 真理子	「多面的・総合的評価」を取り入れた大学入学者選抜の課題と支援方法に関する研究 －アドミッション業務における専門性に着目して－
田 中 孝 平	高大接続における高校の探究学習の意義と課題 －大学生対象のインタビュー調査を通して－
中 西 勝 彦	単位不足学生の大学生生活経験に関する研究 －単位不足に至る要因とプロセスに着目して－
包 福 升	1950年代前半内モンゴルにおける「自治」と民族語教育 －漢語優位の制度に対するモンゴル人の受容と抵抗－
村 上 匠	Jessica Benjamin の subjectivity について

---

卒業論文題目一覧

氏名	論文題目
井手 俊介	デューイ教育思想における興味の社会的側面と民主主義
大平 優斗	丸木政臣による総合学習の理論と実践
岡田 のの香	母親の内省機能の高さが養育行動と子どもの心の理論の獲得に及ぼす影響の検討
岡田 美優	榎原昭徳による授業づくりの理論と実践
佐藤 来唯	石山脩平のカリキュラム論に関する検討
嶋 佑介	生き方としての民主主義における対話： デューイの民主主義論と教育論を基に
谷口 浩基	遠山啓の「たのしい授業」論に関する一考察
仲井 慧悟	Kuki Shūzō's Logic of the Interiorization of Contingency: Rethinking the Educational Anthropology of the Kyoto School
中村 陸	異性愛と同性愛における非性的な親密性の形成 －メルロ＝ポンティの性の概念をもとに
長島 慧治	ジル・ドゥルーズの哲学からの教育と臨床 －思考・主体の発生と変容の観点からの問い直し
野田 涼平	失った他者への／みずからへの言葉を繋ぎ直すということ －デリダの「到来の言語」をもとに
藤井 克明	ハイデガー『存在と時間』におけるもう一つの非本来性について －かりそめの「私」に耐えること
宮 寄 達彦	母親の表情認知の多様性 －育児ストレスとの関連
山田 章浩	安井俊夫の教育内容論 －「歴史教育固有の論理」の追求－
山本 剛大	公私を一致させる欲求を放棄することは可能か －R・ローティの「偶然性・アイロニー・連帯」を検討して－
若杉 萌	1920年代前半における産児調節運動と女性たち －日本におけるリプロダクティブ・ライツの源流をたどる－
長谷川 真也	マシュー・リップマンによる「子どもの哲学」の理論と実践
松井 雄司	学習英文法の再検討 －寺島隆吉の理論と実践を中心に
山内 渚	『善の研究』における「分化発展」 －西田哲学の通奏低音－
北川 翔悟	1960年代京都大学における学生運動 －自治獲得を目指す創設期学生寮－
田邊 晨彦	トリートメントとエンハンスメントの間：ADHDを巡る状況からの分析
小北 純次	批判的思考態度が心理的リアクタンスの生起に及ぼす影響
坂田 英里奈	挫折体験後の心理的成長感とその主観的プロセスについての検討 －自己低下感及びレジリエンスとの関連に着目して－
篠原 幹博	リアルタイム映像と録画映像の相互作用性の相違が動作に及ぼす影響

令和2度卒業論文

高橋文菜	青年期における友人関係と個人志向性・社会志向性との関連
立石ゆり	物語によるシャードンフロイデ喚起 －不幸の大きさと物語移入傾向にも着目して－
宮原里奈	他者からの受容と自尊感情の関連について －受容体験および自尊感情の性質に着目して－
井口恵理	ネガティブなニュースの視聴と心的状態の研究 －ニュースの視聴態度と精神的健康に関する量的分析および視聴によって喚起される感情体験の質的分析－
多和田珠良	他者に対して抱く信念への気づき方と、気づいた後の心理過程について
油田優衣	先天性の障害当事者が語る「治療」に対する両義的な意味づけと葛藤 －SMA当事者へのインタビューを通じて－
大江郁弥	コミュニティ・スクールの変遷と学校運営協議会制度の認識に関する考察
奥田大雅	企業はいかにして女性役員を増やしたか
尾持俊丞	ビジネス誌が啓発するポスト近代の「教養」
上村太郎	少女漫画雑誌初期における少女たちの親密性 －週刊誌時代成立期の作品群を題材に－
紺野求	殺人事件の新聞報道における識者コメントの内容分析
柴田恭亘	文芸創作の教授可能性が否定されることの機能 －『We Wanted to Be Writers』の分析を通して－
惣田有咲	働く母親の自己アイデンティティに関する社会学的研究
祖父江和人	児童画コンクールにおける「子どもらしさ」の構築 －全国教育美術展を事例として－
高濱航	第二次世界大戦における高学歴者の軍隊経験 －陸軍での従軍生活を手掛かりにして－
田玉紘也	貧困世帯の児童生徒への学習支援の拡充 －地方自治体における文部科学省・厚生労働省管轄事業の共同実施事例に着目して－
大尾滉輔	ギャンブルに対する大衆イメージに関わる一考察
津田佳歩	矯正施設と読書指導：1970～80年代の少年院における思想と実践
富田一葉	外国人の就学に対する行政指導 －就学指導における外国人学校の扱いに着目して－
中子和音	神戸女学院卒業生の進路選択に関する社会学的研究 －同窓会冊子の分析を中心に－
中村壮希	オンラインフォームを用いたアンケートへの学生サンプルの不良回答行動について －Googleフォームを用いて－
廣橋梨奈	スウェーデンにおける就学前教育の変遷 －教育とケアの位置づけに着目して－
堀田満里子	日韓共通歴史教材作成の試み －発行時期と対象者の違いを中心に－
松岡里奈	育児をめぐる公共性とその交錯 －保育施設の建設反対に関する新聞・雑誌記事の分析から－
松本愛	児童虐待に関する公式統計の二次分析 －「発見」率の地域差に着目して



八 神 公 亮	ボランティアに対する大学生の意識に関する社会学的研究 －学生団体メンバーへのインタビュー調査を中心に－
山 下 遼 祐	なぜ日本の高学歴女性は少ないのか
山 本 康 生	日英の初等教育におけるプログラミング教育の比較
PUREVDORJ DORJSEMBE	リカレント教育の推進に資する高等教育の柔軟性に関する比較的考察

---

## 執筆者紹介

### 執筆者紹介（執筆順）

比護 遙	日本学術振興会特別研究員 教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
藤村 達也	教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
彭 永成	教育文化学コース 博士後期課程 2 回生
王 令薇	教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
張 潔麗	比較教育政策学コース 博士後期課程 3 回生
呉 江城	教育文化学コース 博士後期課程 2 回生
佐野 和子	日本学術振興会特別研究員 教育文化学コース 博士後期課程 3 回生
岩井 八郎	教育社会学講座 教授
森本 和寿	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 3 回生
高谷 掌子	臨床教育学コース 博士後期課程 2 回生
祁 白麗	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
本宮裕示郎	教育方法学講座 博士後期課程 3 回生
石田 智敬	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
鎌田 祥輝	教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
後藤 悠帆	日本学術振興会特別研究員 臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
浅井 健介	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
康 楠	教育学研究科 教育認知心理学コース 博士後期課程 1 回生
小畠 純一	臨床心理学コース 博士後期課程 2 回生
豊原 響子	臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
渡部 智行	臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
長谷 雄太	臨床心理学コース 博士後期課程 2 回生
山岸 礼門	臨床心理学コース 博士後期課程 2 回生
文山 知紗	臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
松下 姫歌	連携教育学講座（臨床教育実践研究センター） 准教授
藤本 航平	臨床心理学コース 博士後期課程 1 回生
溝口 侑	高等教育学コース 博士後期課程 3 回生

※投稿論文数は 30 件、うち 26 件の論文を採択した。

# 京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程

2015.04.14 改訂

2016.05.10 改訂

2018.04.10 改訂

2019.4.17 改訂

## (1) 投稿資格

単著論文の場合、執筆者は、本研究科教員・研究員・研修員および博士後期課程 1 年次以上の大学院学生とする。ただし、研修員については少なくとも受け入れ教員 1 名の推薦、大学院学生については少なくとも指導教員 1 名の推薦のある者に限る。

上記の資格をもつ者が年度途中で身分を変更した場合にも、少なくとも前期に在籍すれば、投稿資格をもつ。ただし、身分変更を速やかに届けて、変更後にも紀要編集委員会と連絡が取れる状態にあることを条件とする。以上の条件を満たさない場合には、投稿資格を失う。

共著論文の場合、本研究科教員が第一著者となり、学内外の研究者（修士課程 1 年次以上の大学院学生を含む）を共著者とするもの、または本研究科研究員が第一著者となり、本研究科教員を共著者とするものに限る。

## (2) 内容

原稿の内容は未発表の学術論文とする。

## (3) 使用言語

原則として自由。ただし、外国人留学生は日本語で投稿すること。

## (4) 原稿枚数

A4 用紙で 1 枚当たり「42 字×38 行」とし、第一著者が本研究科教員の論文は 25 枚（本文 24 枚＋アブストラクト 1 枚）、それ以外の論文は 14 枚（本文 13 枚＋アブストラクト 1 枚）を上限とする。外国語論文の枚数もこれに準じる。

## (5) 投稿要領

投稿に際しては、執筆注意事項指定の書式に従い、原稿を締切日までに指定された提出先に提出のこと。

## (6) 投稿・問い合わせ先

紀要編集委員会

## (7) 原稿の掲載の可否

原稿の掲載の可否については、学外の専門家を含む複数の審査委員による査読を基に紀要編集委員会が決定する。

## (8) 著作権

本紀要に掲載された論文の著作権は本研究科に属する。

---

編集委員 岡野 憲一郎 齋藤 直子  
福井 佑介 久富 望

---

---

---

令和3年3月12日 印刷

令和3年3月25日 発行

発行人 京都大学大学院教育学研究科  
代表者 楠見 孝

印刷所 株式会社 北斗プリント社  
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2  
TEL (075) 791-6125

発行所 京都大学大学院教育学研究科  
京都市左京区吉田本町

---

---

# Kyoto University Research Studies in Education

No. 67

症例「鼠男」における自我変容としての道徳性

理念的なものはいかに教えられるのか

中国人日本語学習者の文章理解に及ぼす音韻処理自動化の影響

心理臨床におけるイニシエーション概念についての研究

「自分の物語」はいかにして生成されるか

アリス・ミラーの理論からみた、現代の精神分析臨床

犯罪における“悪”および破壊性に関する一考察

D. W. Winnicott の精神分析理論および実践に関する一考察

自閉スペクトラム症における「つながり」に関する一考察

心理療法における「エビデンス」とは何か

心理臨床を茶の湯に見立てる

キャリア形成支援におけるロールモデルの機能と関係性